

平成 22 年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する事業をおこないました。

青少年の健全育成を目的としたスポーツ振興の分野においては「陸上競技支援」と「自然体験活動支援」事業を中心に、また食文化振興の分野では「食創会『安藤百福賞』表彰」と「インスタントラーメン発明記念館運営」の事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告します。

1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさと仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、昭和 60 年より全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

(1) “日清食品カップ” 第 26 回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

全国 47 都道府県で開催された予選大会と、8 月 27 日、28 日に東京・国立霞ヶ丘競技場で開催された決勝大会を後援しました。第 19 回大会出場者で、平成 22 年 7 月、世界ジュニア陸上競技選手権大会（カナダ）男子 200m 優勝の飯塚翔太選手（中央大学）が、大会前日に開催された研修会に参加し、小学生に実技指導をしました。

昭和 60 年に「第 1 回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートした本大会は、毎年 16 万人を超える選手、指導者、関係者が参加し、第 8 回大会出場の末續慎吾選手、第 12 回大会出場の高平慎士選手が北京オリンピック男子 4×100m リレーで銅メダルを獲得するなど、オリンピックや世界陸上選手権大会など国際舞台で活躍する選手が誕生しています。本大会は、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。

また決勝大会当日、全国の各都道府県から選ばれた 47 名の指導者に対して、少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」の贈呈がおこなわれました。これは、子どもたちの心身の健全な育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えのもと、全国各地で小学生の陸上競技の指導に取り組まれている指導者を顕彰するものです。

【主催・後援】 主催：日本陸上競技連盟、後援：文部科学省他

【実施日】 予選大会 平成 22 年 6 月 12 日(土) ~ 7 月 25 日(日)

決勝大会 平成 22 年 8 月 27 日(金) ~ 8 月 28 日(土)

【場 所】 予選大会 全国 47 都道府県予選大会の開催競技場

決勝大会 東京・国立霞ヶ丘競技場

【参加数】 165,000 人

【内 容】 47 都道府県で開催された予選大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈しました。

決勝大会は、男女の友好レース 100m、5 年 100m、6 年 100m、80m ハードル、走幅跳、走高跳、4×100mリレー、ソフトボール投と、陸上競技の「走・跳・投」の 3 要素の競技が実施されました。大会の熱戦の様子は、9 月 4 日（土）NHK 教育テレビで全国に録画放映されました。

【事業費】 107,082,104 円

（2）“日清食品カップ”第 13 回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

本大会は、発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法や呼吸法、トレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成 10 年度からスタートしました。

全国 47 都道府県の代表チームに、開催地大阪から推薦された 3 チームを加えた計 50 チームが参加し、万博記念公園特設コース（大阪府吹田市）にて開催を予定していましたが、3 月 11 日に発生した東日本大震災による交通機関の混乱や断続的に続く余震を考慮し、第 13 回大会は残念ながら中止となりました。

【主催・後援】 主催：日本陸上競技連盟、後援：文部科学省他

【開催予定日】 平成 23 年 3 月 19 日（土）～ 20 日（日）（中止）

【事業費】 5,695,648 円

2. 自然体験活動支援事業

「自然体験とのふれあいが、子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、当財団では「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」を主催し、子どもたちの健全育成のための自然体験活動のさらなる普及と活性化に取り組んできました。

また、平成 22 年 5 月、長野県小諸市にわが国初の自然体験活動指導者養成専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を設立し、自然体験活動の上級指導者養成と指導カリキュラムの研究・開発をおこなっています。

（1）第 9 回トム・ソーヤースクール企画コンテスト

自然体験活動の普及と活性化を目的とした「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、選考の上、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した 50 団体に各 10 万円の実施支援金を贈呈しました。支援した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門は文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門は安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰しました。

また、優秀賞には及ばなかったものの、企画内容がユニークであり、さらなる発展が期待できる団体に対して、「トム・ソーヤー奨励賞」を贈呈しました。なお、今回支援した 50 団体の自然体験活動には、子どもたちと指導者をあわせて延べ約 13,000 名が参加しました。

1月29日に開催した表彰式には、教育関係者や自然体験活動指導者をはじめ200名が参加し、エベレスト単独・無酸素登頂への再挑戦とインターネット生中継を通じて、世界の人々と「冒険の共有」を目指す登山家 栗城史多氏による講演会もおこなわれました。

【後援】 文部科学省、池田市、池田市教育委員会、自然体験活動推進協議会

【表彰団体】

学校部門

- ・文部科学大臣奨励賞（副賞：賞金100万円）
団体名 東京大学教育学部附属中等教育学校（東京都）
企画名 「課題別学習『Outfitters Training』」
- ・優秀賞（副賞：賞金50万円）
団体名 大和高田市立高田西中学校登山部（奈良県）
企画名 「ダイトレチャレンジ2010」

一般部門

- ・安藤百福賞（副賞：賞金100万円）
団体名 （独）国立青少年教育振興機構 国立立山青少年自然の家（富山県）
企画名 「9歳のひとり立ち - ひとりで何でもできるもん!! - 」
- ・優秀賞（副賞：賞金50万円）
団体名 NPO法人生涯学習サポート兵庫（兵庫県）
企画名 「無人島1週間自給自足生活 チャレンジアイランド2010」

トム・ソーヤー奨励賞

- 団体名 NPO法人ECOPUS（東京都）
企画名 「持続可能な社会を目指し、自然とひとと伝統に触れる『山里子ども夏休みキャンプ』」
- 団体名 冒険教育を推進する会（長野県）
企画名 「おたり森の子クラブ2010」
- 団体名 北川流域ネット（宮崎県）
企画名 伝統文化子ども教室「川を思いっきり楽しもう!!2010夏」
- 団体名 渡嘉敷村立阿波連小学校（沖縄県）
企画名 「飛び出せ チャレンジ あはりっ子 ~ふるさとの海(自然)と仲良くしよう~」

【表彰式】

開催日：平成23年1月29日(土) インスタントラーメン発明記念館

来賓：藤原 誠 文部科学省 大臣官房 審議官

倉田 薫 池田市長

村田 陽 池田市教育長

講演会：栗城 史多氏（登山家）

「想いの実現～エベレスト単独・無酸素登山から学んだこと～」

【事業費】 16,197,165円

(2) ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウが満載のホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された平成14年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げています。

このホームページを通して、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。また、これまでの活動報告書約800件がデータベース化されており、検索機能を使って、さまざまなスタイルに応じた企画内容を検索でき、参考にすることができます。

【開設日】 平成14年4月1日

【アドレス】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 8,026,120円

(3) 自然体験活動指導者養成事業「安藤百福センター」の設立

子どもたちの「創造力」や「自活力」を育むためには、自然の中での体験活動が有効であると言われている一方で、日本においては子どもたちを身近な自然環境に案内する指導者と、その指導者を育てる“上級指導者”の数が著しく不足しています。

そこで当財団は、「安藤百福センター」を設立し、“上級指導者”の養成と指導カリキュラムの研究・開発などをおこない、自然体験活動のさらなる普及と活性化を図っています。

【事業目的】

自然体験活動における上級指導者養成事業。

自然体験活動及びアウトドア全般に係わる専門家等の養成・講習事業。

大学、大学院、専門学校等の自然・野外・観光・農業に係わる講義演習。

(単位の取得等も含む)

自然体験活動に係わる企業研修をはじめ、各種研修及び研究事業他。

【施設概要】

名称： 安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター

(略称：安藤百福センター)

所在地： 長野県小諸市大久保 1100

広 さ： 敷地面積 約 37,200 m² (約 11,250 坪)

延床面積 約 2,000 m² (約 605 坪)

構造： 鉄骨造・鉄筋コンクリート造 地下1階、地上2階建

設計者： 隈 研吾 (東京大学大学院 教授)

設備： 宿泊室(40名)、カンファレンスホール(最大200名)、食堂、自然散策路(1,200m)他

【平成 22 年度 利用者実績】

延べ利用者数： 2,649 名
延べ利用団体数： 49 団体
主催事業数： 9 事業
主催事業参加者数： 612 名

【平成 22 年度 主な主催事業】

竣工記念式典

開催日： 平成 22 年 5 月 21 日（金）
来賓： 河村 建夫 衆議院議員
中曽根 弘文 参議院議員
村井 仁 長野県知事
芹澤 勤 小諸市長
文部科学省、自然体験活動団体、関係者他 150 名

環境公開講座

開催日： 平成 22 年 10 月 18 日（月）～ 20 日（水） 延べ 85 名参加
講師： 18 日（月）清水 國明 氏（タレント、河口湖自然学校代表理事）
「自然の中でヒトになる」
19 日（火）加藤 尚武 氏（哲学者、鳥取環境大学 初代学長）
「環境倫理とは何か」
20 日（水）今井 通子 氏（医師、登山家）
「地球環境保全と健康」

国際アウトドアシンポジウム

開催日： 平成 22 年 11 月 6 日（土） 約 120 名参加
基調講演： ジャック・シェア氏
（グランド・ティートン・サイエンススクール校長）
「米国における自然体験活動と指導者養成の現状と課題」
シンポジウム： 「米国の事例に学ぶ、日本の自然体験活動の課題」
コーディネーター／パネリスト：
岡島 成行 氏（大妻女子大学 教授、安藤百福センター センター長）
大西かおり 氏（NPO 法人大杉谷自然学校 理事長）
佐藤 初雄 氏（NPO 法人自然体験活動推進協議会 代表理事）
下村 善量 氏（(独)国立青少年教育振興機構教育事業部長）
節田 重節 氏（NPO 法人アウトドアライフデザイン開発機構 会長）

【事業費】 147,322,270 円

3 . 食文化支援事業

「食創会」は平成 8 年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及活動を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する独創的な研究者、開発者ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。大賞（副賞：賞金 1,000 万円）や優秀賞のほか、平成 18 年度より新設された発明発見奨励賞は、大学等の若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。「安藤百福賞」は食文化振興の中心的事業として、平成 22 年度で 15 回目を迎えました。

平成 22 年度は、2 年連続 6 回目となる大賞 1 件、優秀賞に 3 件、発明発見奨励賞に 1 件を選出し、3 月 9 日、ホテルニューオータニ（東京）にて表彰式および記念講演会を開催しました。

食創会「第 15 回安藤百福賞」

【後 援】文部科学省

【受 賞 者】

大賞(副賞:賞金 1,000 万円)

・村田 修 氏（近畿大学水産研究所 所長・教授）

「完全養殖クロマグロの量産化」

優秀賞（副賞：賞金各 200 万円）

・裏出 令子 氏（京都大学大学院農学研究科 教授）

「小麦グルテンの新機能開発に関する研究」

・村田 容常 氏（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）

「食品の酵素的・非酵素的褐変に関する基礎及び応用研究」

・久保 秀明 氏（ヒガシマル食品株式会社 副工場長）

「新しいノンフライ用粉末調味料『揚げずにからあげ鶏肉調味料』の開発」

発明発見奨励賞(副賞:賞金 100 万円)

・神戸 大朋 氏（京都大学大学院生命科学研究科 准教授）

「亜鉛トランスポーターの機能解析を基盤とした亜鉛栄養改善を目指した食品科学研究」

【表彰式・記念講演会】

開 催 日： 平成 23 年 3 月 9 日(水)

場 所： ホテルニューオータニ（東京）

来 賓： 鹿野 道彦 農林水産大臣

河村 建夫 衆議院議員

清水 潔 文部科学事務次官

記念講演会： テーマ 「日本の食卓の未来

～マグロをはじめとする食料資源確保について～」

基 調 講 演 : 宮原 正典 氏 (水産庁次長)
「マグロをめぐる国際情勢」

特 別 講 演 : 井上 彪 氏 (三菱商事株式会社 常任顧問)
「食料資源と商社」

大賞受賞講演: 村田 修 氏 (近畿大学水産研究所 所長・教授)
「完全養殖クロマグロの量産化」

【事業費】 31,736,174 円

4 . インスタントラーメン発明記念館運営事業

(1) インスタントラーメン発明記念館運営

当財団が運営するインスタントラーメン発明記念館は、平成 11 年にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館し、平成 16 年 11 月には、展示内容と体験工房を充実させて、それまでの約 2 倍の規模に拡張新築しました。インスタントラーメンの発明から産業として世界に広がった歴史を通して、発明・発見の大切さとベンチャーマインドを伝える体験型食育ミュージアムとして、高く評価されています。

近年は、総合学習や修学旅行の場としての利用が多くなり、全国各地より来館する小中学生や高校生を対象に食育教室を開催するなど、子どもたちの創造力を育む活動に力を注いでおります。

【所在地】 大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

【来館者数】 平成 22 年度来館者 570,000 名 (開館以来の来館者数 : 3,311,700 名)

【施設概要】 敷地面積 : 3,888 m²

延床面積 : 2,919 m²

展示ホール : 1,095 m²

(2) 「安藤百福発明記念館」建設プロジェクト

大阪府池田市の「インスタントラーメン発明記念館」は、年間来館者 50 万人の大半が西日本からの来館者です。今回、横浜市に「安藤百福発明記念館」を建設し、東日本エリアと世界に向けて食育・食文化振興事業のさらなる拡大を図ります。

計画を進めるにあたり、既存の考えにとらわれないうで、進化したアイデンティティ構築のために、株式会社サムライ (代表 : 佐藤可士和氏) にコンセプトの企画開発業務を委託しました。

財団創設者で、インスタントラーメンの発明者である安藤百福の言葉や思考、行動の本質を現代アートの手法で表現し、世界を変えた新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福のベンチャーマインド = “クリエイティブシンキング” を展開し、情報発信いたします。インスタントラーメンの発明という小さな発想が大きな発明に結びついた事例を通して、発明・発見の楽しさ、すばらしさを伝えて、子どもたちのベンチャーマインドや自由な発想、創造力を育みます。

【施設概要】 所在地： 神奈川県横浜市中区新港二丁目3番4号
開館予定： 平成23年9月17日(土)
建設費用： 25億円
敷地面積： 約4,000㎡
延床面積： 約10,000㎡
施工会社： 五洋建設株式会社 他
【地鎮祭】 実施日： 平成22年9月29日(水)
【事業費】 134,889,560円

5. 青少年の健全育成を目的とする支援・協賛事業

- (1) 「生涯スポーツの新たな時代に向けて」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体づくり2011 - 人・スポーツ・未来 - 」(主催：文部科学省他)に協賛しました。
【開催日・場所】 平成23年2月3日(木) 神奈川県・横浜ロイヤルパークホテル
【協賛金額】 500,000円
- (2) 東日本大震災の被災地支援として、NPO法人河口湖自然楽校が主催する「“生きるチカラ”キッズキャンプ」に被災地の子どもたちを無料招待する活動趣旨に賛同し、支援しました。
【支援先】 NPO法人河口湖自然楽校(理事長 清水 國明)
山梨県南都留郡富士河口湖町小立 5606
【支援金額】 5,000,000円

以上